

令和7年度第2回東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部ネットワーク会議

場所 双葉町産業交流センター 大会議室
日時 令和8年2月7日（土）14：00～15：30

次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議 会長
福島県文化スポーツ局長
- 3 報告 令和7年度事業報告
- 4 協議 令和8年度事業計画
 - (1) 令和8年度会議等日程（案）
 - (2) 令和8年度伝承者育成講座（案）
 - (3) 令和8年度伝承者育成講座開催要項（案）
 - (4) 令和8年度伝承者育成講座（中国語話者向け）開催要項（案）
 - (5) 令和8年度伝承者育成講座（英語）開催要項（案）
 - (6) 語り部県外派遣者の登録及び資格について
 - (7) 語り部県外派遣の申込及び派遣者の決定について
- 5 事務連絡
- 6 閉会

参加者名簿

【会 員】（方部別 五十音順）

NO.	所 属	氏 名	出欠
1	F. tellers (エフ・テラーズ)	前川 直哉	出
2	シン・ふくしま自治体職員の学校	平野 勝長	欠
3	星降る古里ひろの	鈴木 恵子	出
4	山百合の会	松田早百合	出
5	子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団	佐藤 敬子	欠
6	ふくしまリアリ	山口 祐次	出
7	藤沼湖自然公園 復興プロジェクト委員会	深谷 武雄	欠
8	會空（あいこう）	庄子ヤウ子	欠
9	防災語り部の会	鶴見美佐子	出
10	相馬市観光協会	草野 清貴	欠
11	南相馬 原発・震災語り部の会	岩橋 光善	出
12	原発震災を語り継ぐ会	高村 美春	出
13	ニコニコ菅野農園	菅野 クニ	欠
14	浪江まち物語つたえ隊	岡 洋子	出
15	大堀相馬焼協同組合	半谷 貞辰	欠
16	東日本大震災・原子力災害伝承館	齊藤 祐二	出
17	双葉町語り部の会	國分 信一	出
18	大熊未来塾	木村 紀夫	欠
19	おおくま町物語伝承の会	橘 秀人	出
20	HITOkumalab	佐藤 亜紀	欠
21	富岡町 3・11を語る会	青木 淑子	出
22	双葉郡未来会議	平山 勉	欠
23	J ヴィレッジ	蛭田 広美	出
24	いわき語り部の会	大谷 慶一	欠
25	いわき市観光物産センター（いわき・ら・らミュウ）	本田 和弘	欠
26	ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）	古川 健	欠
27	福島浜通り復興まちづくり語り部の会	三船 暁	出

【オブザーバー】

NO.	所 属	氏 名
1	東北大学災害科学国際研究所 准教授	佐藤 翔輔
2	川俣町教育委員会生涯学習課 社会教育指導員	遠藤 貴美子
3	南相馬市教育委員会事務局生涯学習課生涯学習係	小野田 彩乃
4	福島県観光物産交流協会観光部ホープツーリズムサポートセンター 所長	高橋 良司
5	福島大学地域未来デザインセンター／ 東日本大震災・原子力災害伝 承館 客員研究員	山田 修司
6	防災語り部の会	鶴見 常夫
7	東日本大震災・原子力災害伝承館	横山 和佳奈

【事務局】

NO.	所 属	氏 名
1	福島県生涯学習課 課長	中 村 敬
2	福島県生涯学習課 主幹兼副課長	斎 藤 才 子
3	福島県生涯学習課 社会教育主事	大 塚 渉
4	福島県生涯学習課 主事	舟 木 真実恵

3 報告 令和7年度事業報告

I ネットワーク化・レベルアップ

(1) 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

会議	実施日・時間	場 所	参加人数	主な内容
第1回	5月15日(木) 14:00~15:20	双葉町産業交流 センター 大会 議室	21団体 (オブザー バー含め27 人)	・令和7年度事業計画について ・令和7年度伝承者育成講座(案)について 等
臨時総 会	7月2日(水) 13:30~15:30	富岡町文化交 流センター 小ホ ール	9団体(10 名参加)	・県外派遣者の決定方法について ・ネットワーク会議の会員登録について ・伝承者育成講座修了者が県外派遣の対象となる仕組みについて ・次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム会議について
第2回	令和8年 2月7日(土) 13:30~15:30	双葉町産業交流 センター 大会 議室	14団体(オブ ザーバー 含め21人)	・令和7年度事業報告 ・令和8年度事業計画について 等

(2) ふくしま震災伝承者交流会

実施日・時間	場 所	参加人数	内 容
令和7年12月9日(火) 10:20~14:20	富岡町文化交 流センター 大会 議室	50人	・テーマ「あなたなら どう伝えるか？」 ・講演「目に見えない放射線 —伝えたかったことと聞いた かったこと—」杉浦 紳之氏 ・グループワーク

II 伝承者育成

(1) 次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム会議

会議	実施日・時間	場 所	参加人数	主な内容
第1回	5月17日(金) 10:00~11:55	富岡町文化交 流センター 小ホ ール	PT 委員 7人	・令和7年度伝承者育成講座案について
第2回	令和8年 1月23日(金) 10:00~11:55	福島県企画調整 部分室1	PT 委員 6人	・令和7年度伝承者育成講座実施状況について ・令和8年度伝承者育成講座案について 等

(2) 伝承者育成講座／中国語講座

令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座／中国語講座 実施結果概要

○開講式・第1回伝承者育成講座

受講生 19 名（育成講座 18 名、中国語講座 1 名）

【日時】令和7年7月19日（土）10：20～16：30

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室

【内容】開講式

1 時間目「語り部の役割」

講師：ふくしま語り部ネットワーク会議会長 青木淑子氏

2 時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

講師：富岡町 3・11 を語る会代表 青木淑子氏、福島大学准教授 前川 直哉氏

3 時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

講師：ふくしまリアリ代表 山口祐次氏



○第2回伝承者育成講座（1日目）

受講生 18 名（育成講座 16 名、中国語講座 1 名、中国語講座聴講 1 名）

【日時】令和7年9月27日（土）9：30～16：00

【場所】大熊町・いわき市薄磯地区

【内容】フィールドワーク①大熊町 講師：大熊未来塾代表 木村紀夫氏

フィールドワーク②いわき市薄磯地区 講師：いわき語り部の会代表：大谷慶一氏



○第2回伝承者育成講座（2日目）

受講生 18名（育成講座16名、中国語講座1名、中国語講座聴講1名）

【日時】令和7年9月28日（日）9：00～15：30

【場所】双葉町産業交流センター

【内容】1時間目 意見交換会 講師：福島大学准教授 前川 直哉氏

2時間目「伝わりやすい話し方講座」講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏

3時間目「プレゼンテーションスキルアップ」講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏



○第3回伝承者育成講座

受講生 8名（育成講座7名、中国語講座1名）

【日時】令和7年11月29日（土）10：30～14：30

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室等

【内容】「プレゼンテーションスキルアップ」

講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏、福島大学准教授 前川 直哉氏、
ふくしまリアリ代表 山口祐次氏



(3) 英語講座

令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座（英語） 実施概要

1 講師

伊藤 Odbayar氏（リングイスト語学スクール代表）
：発音、イントネーション等英語指導等
野地 雄太氏（株式会社Beyond Lab代表取締役）
：「語り部」としての視点からの英語指導、表現のアドバイス等

2 日程・内容

○第1回講座

【日時】令和7年7月19日（土）

受講生①の講座：10：30～11：30

受講生②の講座：12：30～13：30

受講生③の講座：14：00～15：00

受講生④の講座：15：30～16：30

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室

【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」翻訳原稿の表現確認、質疑応答、原稿の音読等。

○第2回講座

【日時】令和7年9月27日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座②」原稿修正、原稿の音読、発音指導等。

○第3回講座

【日時】令和7年11月1日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座③」原稿の音読、発音指導、音読から伝える語りへの練習等。

○第4回講座

【日時】令和7年12月6日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

受講生④の講座：14：00～15：00

【内容】「翻訳原稿の音読講座④」原稿の音読、発音指導、スライド資料を使用した語りの練習等。

(4) 3.11 被災地視察研修

実施日	訪問地	参加人数
令和7年10月9日（木） ～10月10日（金）	宮城県東松島市（復興祈念公園、未来学舎 KIBOTCHA、現地の語り部との交流ほか）	18人

Ⅲ 県外等への語り部派遣

(1) 県外派遣

令和7年度語り部県外派遣実施報告について

令和8年1月29日現在

①派遣先一覧表

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者 属性	主催者 地域	主催者	行事名	団体	決定講師	聴講者 数(人)
1	令和7年 5月24日(土)	茨城県	水戸市	民間	ハクビ京都きもの学院茨城師範会	免許授与式&パーティー	星降る古里ひろの	鈴木恵子	60
2	6月21日(土)	東京都	清瀬市	民間	NPO法人きよせラボ (小学5.6年生対象)	防災授業	富岡町 3・11を語る会	宗像涼	70
3	6月21日(土)	東京都	清瀬市	民間	NPO法人きよせラボ (小学3.4年生対象)	防災授業	富岡町 3・11を語る会	宗像涼	60
4	6月21日(土)	東京都	清瀬市	民間	NPO法人きよせラボ (保護者・地域住民対象)	防災イベント	富岡町 3・11を語る会	宗像涼	30
5	6月22日(日)	熊本県	水俣市	行政	原発避難計画を考える 水俣の会	福島原子力災害の経験から水俣の避難計画を考えよう	原発震災を語り継ぐ会	高村美春	30
6	7月8日(火)	長崎県	佐世保市	行政	清水地区自治協議会・ コミュニティセンター 北地区自治協議会・コ ミュニティーセンター	福島語り部のおはなし会 ～3C3J共催講座～	いわもと社会福祉事務所	岩本美智子	80
7	7月8日(火)	長崎県	佐世保市	行政	山澄地区自治協議会 ・コミュニティセンター	福島語り部のおはなし会 ～3C3J共催講座～	いわもと社会福祉事務所	岩本美智子	80
8	7月9日(水)	長崎県	佐世保市	教育(高)	佐世保女子高等学校	東日本大震災を通して命の大切さを学ぶ	いわもと社会福祉事務所	岩本美智子	160
9	7月15日(火)	東京都	杉並区	教育(高)	東京都立農芸高等学校	第2学年 震災学習	いわき語り部の会	石川弘子	137
10	8月22日(金)	岡山県	備前市	行政	備前市役所 文化スポーツ部 生涯学習課	「災害時の人権」～地震・津波への初期対応と避難生活時の配慮～	いわき語り部の会	大河内喜男	50
11	8月29日(金)	山形県	東置賜郡川西町	教育(小)	川西町立中郡小学校	「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」震災講話(下学年)	浪江まち物語つたえ隊	岡洋子	54
12	8月29日(金)	山形県	東置賜郡川西町	教育(小)	川西町立中郡小学校	「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」震災講話(高学年)	浪江まち物語つたえ隊	岡洋子	56
13	9月4日(木)	香川県	坂出市	教育(小)	坂出市立東部小学校 4年団	総合的な学習の時間	南相馬 原発・震災語り部の会	永岡富紀子	60
14	9月4日(木)	香川県	坂出市	教育(小)	坂出市立東部小学校 教職員	教員研修の時間	南相馬 原発・震災語り部の会	永岡富紀子	30
15	9月10日(水)	栃木県	大田原市	教育(高)	栃木県立大田原高等学校	飯舘村実地研修事前指導 ～「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」震災講話～	ニコニコ菅野農園	菅野クニ	50

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者 属性	主催者 地域	主催者	行事名	団体	決定講師	聴講者 数(人)
16	9月11日(木)	栃木県	佐野市	行政	佐野市役所 人権・ 男女共同参画課 人権推進係	人権教育指導者養成 専門講座	いわき語り部 の会	石塚洋悦	25
17	9月11日(木)	三重県	尾鷲市	行政	尾鷲市婦人の会連 絡協議会	尾鷲市婦人の会連 絡協議会防災講演 会(仮)	いわき語り部 の会	木村貞子	100
18	9月24日(水)	埼玉県	児玉郡 上里町	民間	キヤノン・コンポーネ ンツ株式会社	＜ゆう活＞「ふくしま 語り部」講演会 東 日本大震災・原子 力災害	いわき語り部 の会	木村貞子	60
19	9月26日(金)	栃木県	日光市	行政	日光市中宮祠自治 会	奥日光地域防災の 日 研修会	山百合の会	松田早百合	30
20	10月5日(日)	大阪府	大阪市 西区	民間	シルバーユニオン災害 ボランティア隊	「福島は今」	原発震災を 語り継ぐ会	高村美春	30
21	10月10日(金)	福島県	福島市	民間	東北ノミ株式会社	東北ノミ株式会社 安全衛生協力会 第13回協議会	双葉町語り 部の会	國分信一	43
22	10月24日(金) 【オンライン】	沖縄県	伊是名 村	教育 (中)	伊是名村立伊是名 中学校	防災訓練	山百合の会	松田早百合	60
23	10月27日(月)	徳島県	吉野川 市	教育 (中・ 高)	徳島県立川島中学 校・高等学校	校内人権教育講演 会(中高生, 教職 員、保護者対象)	いわき語り部 の会	石川弘子	520
24	11月5日(水)	沖縄県	今帰仁 村	教育 (中)	今帰仁村立今帰仁 中学校	防災講習会	富岡町 3・ 11を語る会	宗像涼	320
25	11月6日(木)	静岡県	掛川市	教育 (小)	静岡県掛川市立第 一小学校	防災について考えよう	星降る古里 ひろの	鈴木恵子	121
26	11月7日(金)	徳島県	小松島 市	教育 (中・ 高)	徳島県立小松島西 高等学校	人権教育講演会	富岡町 3・ 11を語る会	吉田恵子	540
27	11月11日(火)	静岡県	菊川市	教育 (小)	静岡県菊川市立加 茂小学校 5年1組	防災学習講演会	震災ダンボ ールアート語り 部の会	遠藤昭三	37
28	11月11日(火)	静岡県	菊川市	教育 (小)	静岡県菊川市立加 茂小学校 5年2組	防災学習講演会	震災ダンボ ールアート語り 部の会	遠藤昭三	39
29	11月15日(土)	長崎県	平戸市	行政	長崎県平戸市教育 委員会 生涯学習 課	ひらど市民大学	いわき語り部 の会	大谷慶一	40
30	11月19日(水)	熊本県	葦北郡 津	行政	津奈木町教育委 員会	津奈木町生涯学習 講座(津奈木町防 災講座)	會空(あいく う)	庄子ヤウ子	30
31	11月25日(火)	神奈川県	横浜市	教育 (中)	横浜市立南瀬谷 中学校	事前学習	シン・ふくしま 自治体職員 の学校	平野勝長	26
32	11月26日(水)	神奈川県	横浜市	教育 (中)	横浜市立南瀬谷 中学校	事前学習	シン・ふくしま 自治体職員 の学校	平野勝長	26
33	11月27日(木)	神奈川県	横浜市	教育 (中)	横浜市立南瀬谷 中学校	事前学習	シン・ふくしま 自治体職員 の学校	平野勝長	26

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者 属性	主催者 地域	主催者	行事名	団体	決定講師	聴講者 数(人)
34	11月26日 (水)	栃木県	河内郡 上三川町	行政	上三川町 生涯学 習課	上三川町人権カレ シ 第5回	いわき語り部 の会	大河内喜男	60
35	12月3日(水)	長崎県	長崎市	教育 (中)	長崎県長崎市立福 田中学校	福田中学校人権講 話	いわき語り部 の会	石塚洋悦	200
36	12月11日 (木)	京都府	京都市	教育 (大)	京都ノートルダム女子 大学 佐藤研究室	京都ノートルダム女 子大学 理科室 (2階)	シン・ふくしま 自治体職員 の学校	平野勝長	91
37	12月12日 (金)	東京都	国分寺 市	教育 (小)	国分寺市立第十小 学校	総合的な学習の時 間「国分寺防災プロ ジェクト」での震災講 話	南相馬 原 発・震災語り 部の会	岩橋光善	91
38	12月16日 (火)	青森県	弘前市	教育 (大)	国立大学法人 弘 前大学	弘前大学教養教育 科目「持続可能な 開発目標SDGs-弘 前大学災害対応マ ネージャーその3 原 子力災害の理解ー」	F. tellers (エフ・テラ ズ)	穴戸結実	100
39	12月23日 (火)	佐賀県	唐津市	行政	佐賀県唐津市	東日本大震災・原 子力災害「語り人 (かたりべ)」講演 会	會空(あいく う)	庄子ヤウ子	150
40	令和8年 1月10日(土)	福島県	双葉郡	行政	東日本大震災・原子 力災害伝承館	東日本大震災・原 子力災害伝承館語 り部講話	浪江まち物 語つたえ隊	岡洋子	30
41	1月10日(土)	福島県	双葉郡	行政	東日本大震災・原子 力災害伝承館	東日本大震災・原 子力災害伝承館語 り部講話	浪江まち物 語つたえ隊	岡洋子	30
42	1月14日(水)	静岡県	富士市	教育 (中)	静岡県立吉原林間 学園	防災学習「災害につ いて知る・学ぶ ～ 自分たちにできること ～」	いわき語り部 の会	石塚洋悦	10
43	1月16日(金)	神奈川県	横浜市	民間	神奈川県生活協同 組合連合会	(仮称) 3.11東日 本大震災を忘れな い ～15年前の災 害から学ぶ～	おおくま町物 語伝承の会	橘秀人	20
44	1月22日(木)	静岡県	湖西市	教育 (小)	湖西市立岡崎小学 校	5年生岡学 防災・ 減災講座	ニコニコ菅野 農園	菅野クニ	130
45	1月26日(月) 【オンライン】	沖縄県	伊平屋 村	教育 (中)	沖縄県伊平屋村立 伊平屋中学校	「ふくしま語り部」講 演会	南相馬 原 発・震災語り 部の会	岩橋光善	60
聴講者計									4,052

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者 属性	主催者 地域	主催者	行事名	団体	決定講師	聴講 者数 (人)
46	1月29日(木)	滋賀県	米原市	教育 (中)	米原市柏原中学校	人権集会	相馬市観光協 会	井島順子	47
47	2月1日(日)	大阪府	高槻市	民間	安満人倶楽部 防災 グループ	名称未定 安満人 倶楽部と公園管理 事業者パートナーズ (西武造園株式 会社)との協働事 業	おおくま町物語 伝承の会	橘秀人	100
48	2月4日(水)	茨城県	龍ヶ崎市	教育 (中)	龍ヶ崎市立城之内中 学校	震災学習	龍ヶ崎市立城 之内中学校	菅野クニ	210
49	2月5日(木) 【オンライン】	鹿児島県	大島郡 瀬戸内 町(奄 美大島)	教育 (高)	鹿児島県立古仁屋 高等学校	記載なし	富岡町 3・11 を語る会	青木淑子	38
50	2月9日(月)	静岡県	静岡市	教育 (高)	駿河総合高等学校	地域防災講話	相馬市観光協 会	井島順子	211
51	2月12日(木)	埼玉県	幸手市	教育 (小)	幸手市立吉田小学 校	東日本大震災の経 験から学ぶ防災の 大切さ (吉田防 災フェスティバル)	富岡町 3・11 を語る会	宗像涼	80
52	2月13日(金)	新潟県	新潟市	教育 (中)	新潟市立小須戸中 学校	東日本大震災を学 びに変える	山百合の会	松田早百 合	188
53	2月21日(土)	千葉県	君津市	行政	君津市小櫃公民館	ふくしま語り部に学 ぶ防災講座	双葉町語り部 の会	國分信一	20
54	2月22日(日)	岡山県	和気郡	行政	和気町教育委員会 社会教育課	和気町公民館講 座	原発震災を語り 継ぐ会	高村美春	30
55	3月5日(木)	東京都	江東区	教育 (中)	江東区立有明中学 校	震災講話	星降る古里ひろ の	鈴木恵子	385
56	3月7日(土)	東京都	羽村市	行政	羽村市	羽村市防災週間	震災ダンボール アート語り部の 会	遠藤昭三	60
57	3月7日(土)	福島県	福島市	行政	東日本大震災復興 フォーラム実行委員会	3.11東日本大震 災風化防止イベン ト～復興・その先へ 2026～	未定	未定	40
58	3月10日(火)	福島県	福島市	行政	東日本大震災復興 フォーラム実行委員会	3.11東日本大震 災風化防止イベン ト～復興・その先へ 2027～	F. tellers (エフ・テラー ズ)	發田紗織	40
						予定聴講者計			1,449

聴講者予定合計数 5,501

②属性別講演先一覧表

令和8年1月29日現在

<主催者属性>

主催者	行政	民間	教育	教育（小）	教育（中）	教育（高）	教育（中・高）	教育（大）
回数	18	9	31	10	12	5	2	2

<主催者地域>

地域	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	九州・沖縄
回数		8	20	7	5	2	4	12

<主催者都道府県>

都道府県	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
回数		1				2	5	2
都道府県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
回数	4		2	1	7	4	1	
都道府県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
回数						6		1
都道府県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
回数	1	1	2					
都道府県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
回数	2			2	2			
都道府県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
回数	1	5	2			1	3	

<講演回数上位>

- ①東京都 7回
- ②静岡県 6回
- ③福島県・長崎県 5回

<団体別 派遣回数>

No.	語り部名	派遣回数	所属人数
1	F. tellers (エフ・テラーズ)	2	2
2	シン・ふくしま自治体職員の学校	2	1
3	星降る古里ひろの	3	1
4	山百合の会	3	1
5	震災ダンボールアート語り部の会	2	1
6	いわもと社会福祉事務所	2	1
7	會空 (あいく)	2	1
8	相馬市観光協会	2	1
9	南相馬 原発・震災語り部の会	3	2
10	原発震災を語り継ぐ会	3	1

No.	語り部名	派遣回数	所属人数
11	ニコニコ菅野農園	2	1
12	浪江まち物語つたえ隊	2	1
13	双葉町語り部の会	2	1
14	おおくま町物語伝承の会	2	2
15	富岡町 3・11を語る会	5	5
16	いわき語り部の会	10	5
17	福島浜通り復興まちづくり語り部の会	0	1

<語り部別 派遣件数>

No.	語り部名	派遣件数
1	青木淑子	1
2	猪狩輝美	
3	石川弘子	2
4	石塚洋悦	3
5	井島順子	2
6	岩橋光善	2
7	岩本美智子	2
8	遠藤絹子	
9	遠藤昭三	2
10	大河内喜男	2
11	大谷慶一	1
12	岡洋子	2
13	菅野クニ	2
14	木村貞子	2
15	國分信一	2
16	三船暁	
17	穴戸結実	1
18	庄子ヤウ子	2
19	鈴木恵子	3
20	高村美春	3
21	橘秀人	2
22	橘弘美	
23	永岡富紀子	1
24	發田紗織	1
25	平野勝長	2
26	松田早百合	3
27	宗像涼	3
28	吉田恵子	1

<語り部別 講演回数>

No.	語り部名	講演回数
1	青木淑子	1
2	猪狩輝美	
3	石川弘子	2
4	石塚洋悦	3
5	井島順子	2
6	岩橋光善	2
7	岩本美智子	3
8	遠藤絹子	
9	遠藤昭三	3
10	大河内喜男	2
11	大谷慶一	1
12	岡洋子	4
13	菅野クニ	2
14	木村貞子	2
15	國分信一	2
16	三船暁	
17	穴戸結実	1
18	庄子ヤウ子	2
19	鈴木恵子	3
20	高村美春	3
21	橘秀人	2
22	橘弘美	
23	永岡富紀子	2
24	發田紗織	1
25	平野勝長	4
26	松田早百合	3
27	宗像涼	5
28	吉田恵子	1

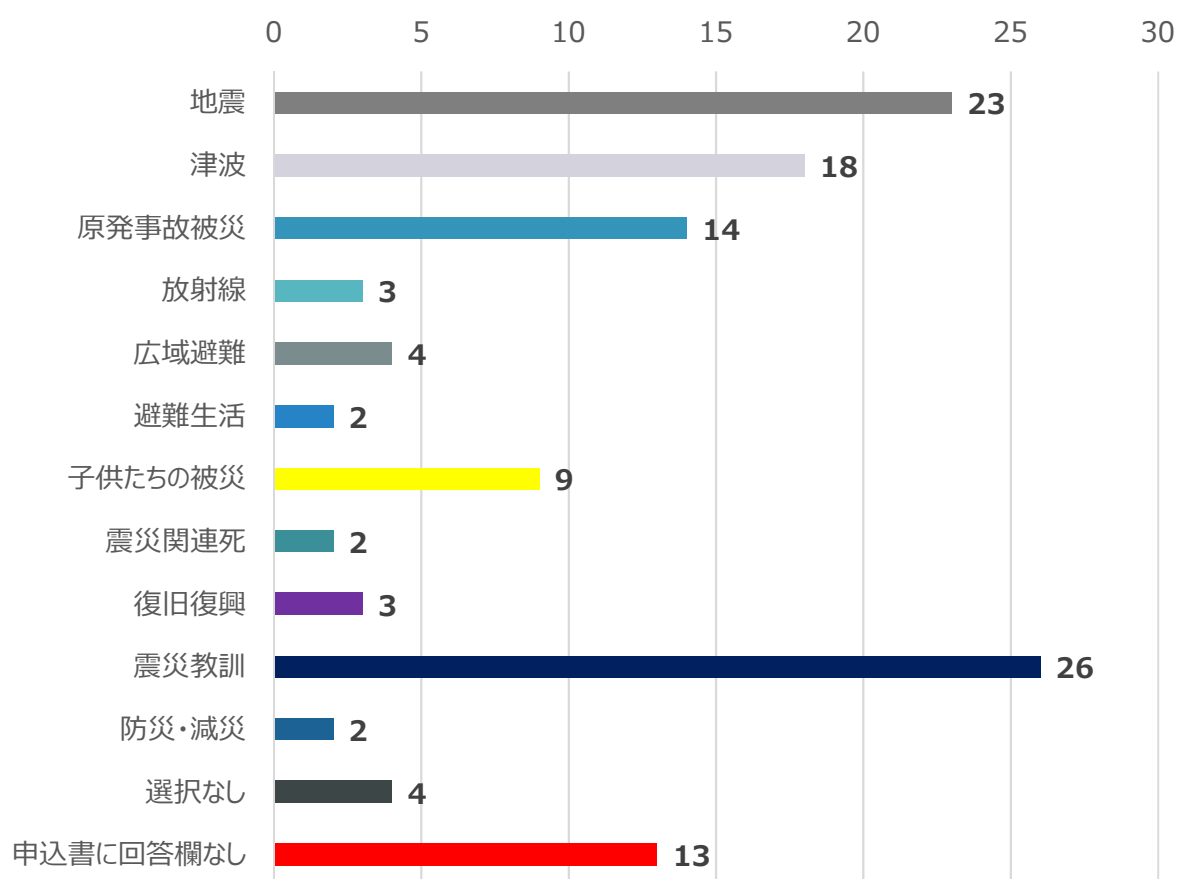
**東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部県外派遣
講話内容の要望 報告書**

令和8年1月22日

株式会社JTＢ福島支店

期間	令和7年度 事業開始～12月24日迄
対象件数	56件（内13件は申込書に属性の回答欄無し）

【要望する講演テーマ 属性一覧】



※「伝統芸能、民話」は選択なし

講演内容のご要望

- 東日本大震災、福島原発事故での被害状況を話して欲しい。（原発事故被災、地震）
- 震災当時の状況や、避難所の様子、災害や復興支援について・災害が起きたときにどのような行動をとるべきか、初期対応や命を守る行動について。災害に備えて日頃から備えておくべきことや、避難生活等について（地震、震災教訓、広域避難）
- 当日の状況や避難所の様子についてお話ししてほしいです。※佐世保市は米軍基地があり、米軍と佐世保市の一部地域で原子力防災訓練を開催しています。（原発事故被災、震災教訓）
- 東北大震災・原子力災害体験者の生の声を聴くことで防災減災の意識を改めて勉強をする。毎年恒例のパーティーに各種の団体個人に演技をお願いしてきた。今回は東海原燃の事故風化防止と福島原子力災害の体験者の生の声を聴くことで防災減災の知識を得る。内容は二人の震災関連死について、災害で助かった命もその後の精神的・身体的な事で命を落とすことがないようにどうしたら良いか問いかける。（申込書に回答欄なし）
- 当時の状況、体験したこと、思ったこと、辛かったこと、避難生活の様子等、ありのままにお話しただけたらと思います。（地震、津波、避難生活、震災教訓）
- 小学生(5, 6年生 30名)から高校生(77名)に加え、教職員、保護者及び地域の方など、年齢に幅があるのでご苦労をおかけします。（ちなみに、小学校は命の教育に力を入れている小学校です。）（震災教訓、原発事故被災、地震、津波）
- 本校は、指定避難所になっており、在籍する生徒たちは、有事の際、自助はもちろんのこと、互助の役割を担う可能性もあります。東日本大震災は、在籍生徒が生まれた頃で、リアルタイムで報道等に触れていないため、是非、この機会に複合災害の経験や教訓について、直接、学ばせて頂けると幸いです。私自身、学校安全について、「まだ何かできることがあるのでは？」と模索している状況です。大切な子供たちの命を預かっている立場であることを全教職員で再確認し、安全教育について深めて行きたいと考えておりますので、お力添えをお願いいたします。（子供たちの被災）
- 当時の状況、避難所での生活、命を守る行動などについてのお話をお願いいたします。（申込書に回答欄なし）
- 東日本大震災での地震や津波等の状況、これから発生する災害で自分、家族、多くの人の命を守るために、今できることをお話頂きたいです。（地震、津波、震災教訓）
- 弊社、安全衛生協議会では日々の作業に直結する安全対策だけではなく、社会的に大きな教訓を残した災害について学ぶ、聞く、知る機会とし「安全講話」を企画しました。私たちが普段「当たり前」だと思っている日常が実はどれほど貴重でかけがいのものかということ、家族と一緒に食卓を囲めること。決して当然ではなく、守られるべき大切な幸せと感じてほしいと思っています。（原発事故被災、震災教訓、復旧復興）
- 震災時に体験した事柄や避難の様子、避難所での人々の生活の様子などをお話しいただき、命を守ること、命の大切さを伝えていただけたらありがたいです。また、多くの課題を乗り越えながら復興に向けて生きる人々、現在の被災地の様子もお話いただけたらありがたいです。（申込書に回答欄なし）
- 自然災害の恐ろしさを子どもたちが体感できるような講演になって欲しい。東日本大震災及び原子力災害の震災等の記憶と教訓を生徒の心に刻むものになって欲しい。・伊平屋村でも過去2年間に津波注意報が発令され、高台へ避難した経緯があります。自然災害や震災を身近なモノとして捉え、いのちの大切さや防犯や減災に対する知識や備えを育む授業としたい。（申込書に回答欄なし）

- 3つの選択のほか、原発事故・放射線等での風評被害や災害関連での人権侵害等、人権教育の視点からの内容等ありましたら、お話をお聞きたいです。（地震、津波、震災教訓）
- 講師の先生にお任せいたしますが、地震や津波への初期対応や避難生活時の配慮等のお話が可能なら、併せてお願いしたいです。（地震、津波、震災教訓）
- 「災害と人権」をテーマに、震災時の様子に加え、災害時やその後明らかとなった人権上の問題についても言及して下さるようお願いしたいです。（申込書に回答欄なし）
- 被災当時の経験と心境、地域や学校での防災意識の重要性、子供たちへのメッセージ（今だから伝えたいこと）（申込書に回答欄なし）
- 本校で毎年開催している飯館村実地研修事前指導として、東日本大震災・原子力災害に関して震災当時を学ぶ機会とする。（申込書に回答欄なし）
- ・小学生向けの講話をお願いします。（対象学年は、小学5年生です。）・本校では、防災学習として震災の恐ろしさや具体的な防災対策等を学習しています。また、学習したことを今後地域へ発信していく予定です。語り部の生の声を生かして、学習をより一層深めていきたいと考えています。（子供たちの被災）
- 大学の講義の中で、地震災害についての基礎的な内容については学習しています。東日本大震災は、どのような震災だったのか、そして、復旧・復興も踏まえて、現在の宮城・福島状況についてもお話しいただけますと幸いです。（地震、津波、震災教訓）
- 災害に備えて自分たちに何ができるかを3学期に学習していくので、それにつながる避難所の生活などを講演していただきたいです。（震災教訓）
- とくに高齢者の避難状況や、地域での共助の体制がどのように構築されていったのか、災害後、まちづくりに関して何か教訓的な得られたことなどについておはなししていただきたいです。（震災教訓、広域避難）
- ①震災の体験談をはじめ、日常生活で今からできる災害対策や自助共助の必要性と具体的な方法など、「他人事」から「自分事」に捉えることができる講演内容を希望します。②安全で住みやすいまちづくりや社会の在り方について考えるきっかけとなるような復旧復興の講演内容を希望します。※時間の関係もありますので、②は時間に余裕がありましたらお願いいたします。（地震、震災教訓、復旧復興）
- 防災と人権について考える講演をお願いしたい。（災害弱者、避難所でのトラブルや偏見、被爆被災者への差別など）（震災教訓）
- 本校の4年生は、年間を通じて「防災」をテーマに学習を深めてまいりました。これまでに、防災グッズや非常食の体験、保護者への学習成果の発表に加え、防災学習センターや堤防建設現場の見学などを行いました。様々な「人・もの・こと」に触れる活動を通して、児童の防災に対する興味・関心は非常に高まっています。しかしながら、実際に各家庭で防災グッズを準備したり、避難場所について話し合ったりといった「具体的な行動」に移せている児童は、まだ半数程度にとどまっているのが現状です。防災を「自分のこと」として据え、行動に移すための「あと一歩」が必要だと感じております。そこで、ふくしま語り部様の実体験に基づいた、地震の恐ろしさや被災した子どもたちの現実、そして命を守るための備えの大切さについて、思いを語っていただけないでしょうか。また、本講演会は3年生以上の児童、保護者、地域の方々にも公開いたします。「防災は大切だ」と理解していても、どこか他人事であったり、準備を後回しにしてしまったりする傾向は、多くの人に見られます。「事前の備えが、かけがえのない命を救う」という事実をお伝えいただき、聴講者全員が「このままではいけない、今すぐ行動しなければ」と強く感じられるような内容にさせていただきますと幸いです。（地震、震災教訓、子供たちの被災）

- 1時間の授業のうち、前半が避難訓練で後半を講演と考えております。内容は、こちらは離島のため津波についての災害と対応、また被災された福島県の震災の教訓を子供たちに伝えていただけたらと存じます。本校は、沖縄県の離島で、事務局様にお電話したところ、おいでいただくのは難しいため、オンラインも可能とお聞きました。また、講演のお時間も30分程度のため、かなり遠方なためおいでいただくのははばかれます。また、天候によるフェリーの欠航もしばしばあるため、オンライン実施のほうが確実だと考えております。また、こちらの案内を教育委員からいただいたのは最近であったため、急なお申し込みになりましたことお詫びいたします。ご無理は承知ですが、ぜひ福島県の語り部様の声をお子供たちに聞かせたいと思いますので、ご検討いただければ幸いです。（地震、津波、震災教訓）
- 東日本大震災に伴う福島県の被災状況（選択なし）
- 弘前大学では令和5年度から学部横断型専攻プログラムを開始しました。この度、講話をご依頼する科目は「16.放射線総合学科」を構成する科目です。講話には、以下の内容を含んでいただきたいと考えています。・避難時の状況・帰還準備と住民の選択（帰還、居住地、住居）・復興の課題と不安（仕事、地域コミュニティ、健康）・被災地の将来への希望（原発事故被災、復旧復興）
- 開催地である高知市は、南海トラフ地震防災対策推進地域の指定を受けており、来場者は津波防災に非常に興味があると思われるので、浜通り（いわき、双葉郡）で被災され、講話内容に津波被災のエピソードが含まれている講師の派遣を希望いたします。（地震、津波、原発事故被災）
- 回答なし（地震、津波、震災教訓）
- 来年度、私たちの学校は修学旅行で福島へお伺いいたします。つきましては、伝承館や請戸小学校へもお伺いし、東日本大震災について学習いたしますので、その理解をより深めるため、今回こちらの講話をご依頼させていただきました。お話ししていただきたい内容は、修学旅行で請戸小学校の話を伺うこともあり、主に原発事故や放射線についてお話ししていただけたらと考えております。後日、その内容について直接ご相談させていただければ幸いです。（原発事故被災、放射線）
- 上記のテーマに沿って大きな災害が起きた時にどんな困難があったのかをお聞きして、私たちが日頃から取り組むべきこと（個人でできること、近隣住民でやるべきこと、自治体として備えるべきこと）を様々な視点で考える勉強の場としたい。ことに近年、被災地がどのように復興に向け今、それが進んでいるのか否か、現状を知る機会は少ない。語り部の方に直接『住民の目』を通した状況をお話しいただき、その対話から学びを得たい。（選択なし）
- 東日本大震災と原子力災害を経験された方が、被災当時どのような苦勞があったのか、その苦勞を振り返るなかで「不足していたもの（物資や情報など）」「あってよかったもの（人とのつながりなど”無形”を含めて）」の具体例をご説明いただき、受講者の「災害への備え」と「人とのつながり・コミュニティの重要性」を理解・再発見する機会にしたい。「人とのつながりの尊さ」をご説明いただくために、可能であれば幼少期など多感な時期に避難生活をしいられた方の講話を希望する。唐津市は原子力発電所の近傍自治体で、原子力災害には敏感です。原子力災害時の避難や放射線量などを講話される際は、個人の主観・主張が強調されないような、ご配慮をお願いします。（地震、津波、原発事故被災、震災教訓）
- 記載例にある内容を希望します。・震災当時の状況や、避難所の様子、津波被害、原子力災害等についてのお話を希望します。・災害が起きた時にどのような行動をとるべきか、初期対応や命を守る行動について。・避難生活における人権問題について、実体験をもとにお話ししてほしい。（地震、震災教訓、広域避難）
- 防災教育での震災講話（地震、津波、震災教訓）
- 東日本大震災と原発事故時の様子をお伺いし福島県の原子力災害の経験から水俣の避難計画を考える。（申込書に回答欄なし）

- 震災当時の状況や、原子力災害の実態、関連死についてのお話を希望します。・教訓から、災害時の備えなど今後の対応を学びたい。・未曾有の原発事故における人権問題について、今も抱える心境など実体験が聞きたい。（原発事故被災、子供たちの被災、震災関連死）
- 上三川町人権カレッジでの震災講話 栃木は内陸なので津波はありませんが、経験され、命を落さず生きのびてこられたお話しや伝えたいこと、私たちにできること・多くを聞きたいです。（申込書に回答欄なし）
- 本校の5年生は、総合的な学習（岡学）で防災について考え、調べ学習を進めてきました。浜松市防災学習センターを見学したり、非常食体験をしたり、湖西市の防災担当の方の話を聞いたりして、防災や減災のための自分たちにできることを考えてきました。「子どもたちの被災」については、本校の児童も調べたいと思っていることでしたが、資料も少なく、想像できていない部分が多くあります。今回は「子どもたちの被災」をはじめとする、本やインターネットからは知ることができない、被災地の実態を教えてください、いつ起こるかかわからない災害へ備えるきっかけとなるようなお話をしていただけると嬉しいです。（子供たちの被災）
- 発災場所が離れていたため、震災当時の状況や避難所の様子、津波被害についての希望します。・災害が起きた時にどのような行動をとるべきか、初期対応や命を守る行動について。・避難生活で起こりうる人権問題について、実体験をもとにお話ししていただきたい。（地震、津波、子供たちの被災）
- 羽村市は地形的には内陸部に位置するため、津波に対する市民の防災意識は低いと思われるが、いづどこで被災するかかわからないため、危険性は正しく認識しておくべきと考えている。市内には、一級河川である多摩川が流れており、低地や川岸段丘の付近に居住する方は、水害や土砂災害に対する防災的な危機意識を有していると思うが、「首都直下地震」や「立川断層帯地震」などに対する普段からの備えをしているのか、過去の震災を人ごとにはせず防災意識を高めておくことが日ごろから求められている。避難所の運営について、地域防災計画で町内会の自主防災組織が主体的に運営することになっているが、市としては、町内会員以外の避難者と協力して、男女・高齢者・若者など多彩なメンバーで運営してもらうことが理想と考えているが、市の避難所運営を町内会が手伝うという誤った認識をいまだにもっている方も多い。避難所での実体験した若者に災害時の避難所の実態と災害時の避難所をどのように市民として運営に協力及び利用していくのが望ましいかを語ってもらいたい。（震災教訓、地震、津波）
- まずは、震災を経験していない生徒たちに、当時の状況を生の声とお話ししていただきたいです。その後、復興がどのように進んでいったのか、その復興の立役者となった人たちの話やこうして風化させないように未来に向かって努力している人たちのお話をしていただきたいです。そして、その震災から復興にかけての15年間の中で得られた教訓や、時代も場所も違う自分たち（中学生）に何ができるのかを一緒に考えていけたらいいなと思っています。生徒たちには事前学習として、震災の被害や原発の被害の話は基礎知識として指導をしたいと思っています。また、中学2年生については、「自分たちに何ができるか」ということをテーマに社会の時間で探求学習を進めています。「防災訓練をもっとよりよいものにしよう」「募金活動をして支援団体に寄付をしよう」「避難所経営を勉強しよう」と様々なアイデアをだして、それぞれで実現に向けて活動をしています。この応募につきましても、生徒のほうから、「実際に経験をした方からお話を聞きたい」というアイデアが出て、私が連絡をいたした次第です。ぜひ、このようなお話をしていただけたらと思います。（選択なし）
- 震災当時の状況・心境など、経験された方の生の声をお聞かせ願いたいです。また、震災からこれまでにしてもお聞かせいただけるとありがたいです。命の重みや、今自分が生きている平和な環境が当たり前ではないということを感じられる時間になると幸いです。（地震、津波、原発事故被災、子供たちの被災、震災関連死）

福島県文化スポーツ局生涯学習課 御中

令和7年度 東日本大震災・原子力災害
ふくしま語り部県外派遣事業に関するアンケート

報 告 書

令和8年1月13日

株式会社 JTB



令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

実施期間	令和7年12月26日(金)～令和8年1月13日(火)
実施方法	FormsによるWeb回答、またはアンケート用紙での回答
実施目的	令和7年度の申込方法（リスト順で語り部団体を選定）について、県外派遣登録団体の考えを取り集め、再度申込方法について語り部ネットワーク会議内で検討するため。
対象者	ふくしま語り部県外派遣（語り部ネットワーク会議）に登録している語り部団体
回答人数	25名（回答辞退 2名）

【対象団体：17団体】

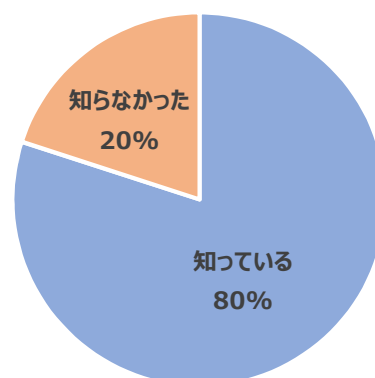
- ・ F. tellers（エフ・テラーズ）
- ・ シン・ふくしま自治体職員の学校
- ・ 星降る古里ひろの
- ・ 山百合の会
- ・ 震災ダンボールアート語り部の会
- ・ いわもと社会福祉事務所
- ・ 會空（あいくう）
- ・ 相馬市観光協会
- ・ 南相馬 原発・震災語り部の会
- ・ 原発震災を語り継ぐ会
- ・ ニコニコ菅野農園
- ・ 浪江まち物語つたえ隊
- ・ 双葉町語り部の会
- ・ おおくま町物語伝承の会
- ・ 富岡町 3・11を語る会
- ・ いわき語り部の会
- ・ 福島浜通り復興まちづくり語り部の会

[次ページへ続く](#)

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

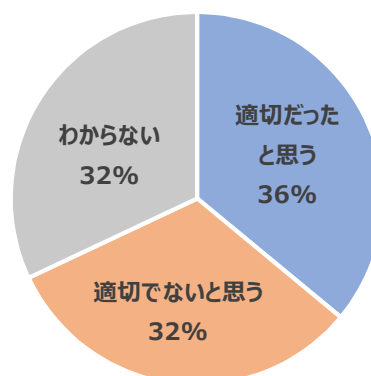
◆昨年8月に語り部県外派遣事業の申し込み方法が変更になったことはご存じですか？

知っている	20	名
知らなかった	5	名



◆本年度から行った、現在の申し込み方法は適切だと思いますか。

適切だったと思う	9	名
適切でないと思う	8	名
わからない	8	名



【現在の申込み～語り部決定までの方法】

- ① 県外派遣事務局に申込みがある（講演内容の希望のみ記載される。語り部の指名はされない）
- ② 県外派遣事務局より、派遣登録団体のリスト順で団体に申込書をお送りする。
- ③ 団体が申込書の主催者の要望を確認し、派遣可否を決定し、県外派遣事務局に回答する。
（主催者の要望の講演内容に沿えるかは、団体が判断する）

次ページへ続く

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

【 適切だったと思う と答えた理由やご意見 】

- 本年度と同じか、主催者側の希望の内容の語り部を選んで頂けると話すほうもやりやすいと思います。
- 団体内で派遣者を決定することはいいと思います。
- 良かったと思う。1つの団体に集中している形もないので平等にふられていると思った。
- ふくしま語り部県外派遣事務局の方のおかげで安心して行くことができます。ありがとうございます。
- 派遣機会が増えた人、減った人の差はどれぐらいなのでしょう？
- 多くの語り部に派遣機会が増えたのは良かった。一方、語り部の知り合いが派遣を依頼しても、その語り部に依頼が来るとは限らないのは良くない。そのため、来年度は、今年のやり方を基本的には踏襲しつつ、語り部の指名もできる制度を併存させるのが望ましいと考える。
- 語り部講話は希望（者）団体様の意図を基本としてその語る内容に合った語り部が行くべきだと考えています。
- 申し込み団体の内容を熟知できるので マッチングがスムーズにいくと思う。
- 会員登録団体の県外語り部の派遣回数に偏りが均整化されますので良いと思います。

【 わからない と答えた理由やご意見 】

- 私自身に依頼のあったものは、日程の都合がつかなかったり、依頼の内容が自分が話せない内容だったのでお断りしたため、今年度は県外派遣実績がありません。また、どの団体にどのような依頼をされているか全体像が見えないため、現在の申込方法がネットワーク会議全体としてみて最も適切な方法なのかどうか、判断が付きません。
- 選考方法などは8月からの変更で良く理解出来ていない部分がある。派遣業務は依頼があれば対応するので特に問題は無い。
- 適切かどうかと問われれば、申込団体の方々の意にあえば、適切だと思いますし、逆もしかりです。分かりません。
- まだ途中経過で結果が出ていない。
- 機会が増えたのか、減ったのか、他団体・語り部さんの回数がわからないので、比べることが出来ませんが、機会はあるにこしたことはないですね。
- わからない。
- 公平性については保たれているのかもしれないが、団体内での公平性や依頼主の希望についてはどうなのか？わからない…

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

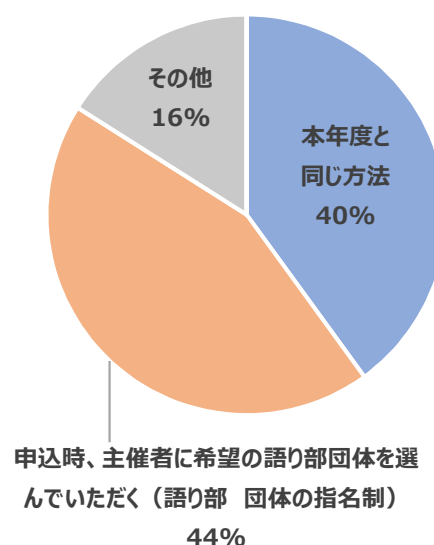
【 適切でないと思う と答えた理由やご意見 】

- 指名の回数に偏りがあり公平さに欠けると会長の言葉から変更になりましたが、団体を飛び越して個人の指名に疑問が芽生えた結果、今回の様になったと理解しています。
ところがミスマッチが起きて苦情が出ました。その苦情は事務局では無く、本来指名していた団体（個人）へです。そこから依頼者との信頼関係が壊れてしまった事実もあります。
その際の議場は発案者とファシリテーターが同一だった為に結果はおざなりになり、今の様な混乱を招いたと言うよりありません。
議長の発案であれば第三者に委ねて議を進めるべきではなかったかと思います。（事務局なりなんなり）
- 今年の動きが遅すぎて語る機会が少なかった。
- 県外語り部派遣に登録された方の活動の場を確保することも大切だと思っておりますが、派遣依頼元のニーズと質を担保する必要があると考えます。
- 各団体へ均等に割り振っては、派遣者の多い団体には、各個人への振り分け枠が少なくなってしまう。
登録個人別に割り振って、その連絡は各団体へ通知する。そうすれば各個人には均等になると思う。
県の予算事業なのだから、派遣先様からの指名は受けなくする。ただし、講話の内容は各個人派遣者には考慮することを徹底する。
- リスト順になれば全ての登録者団体が主催者の要望に応じられるか不安である。アンケート結果を踏まえて団体の力量を考えることも必要だと思います。
各団体の個性もあり、浜通り、中通りなど被災の受け方も違ってきます。全ての登録者が主催者の要望に応じられるか不安である。アンケート結果や団体の力量を考えることも必要だと思う。
主催者が主に何について知りたいか、聞きたいかが分かればやりやすいと思います。
- 以前は語り部ネットワークを通して来る派遣依頼が、今年は直接来るようになった。
我々のような年配の小さな団体は事務連絡等が苦手なので、できれば去年までのようなシステムに戻してもらった方が負担が少ない。
- 申し込みの方からの指名がある場合はそれを尊重すべきだと思います。指名が無ければ事務局の方がどんな話を聞きたいか聞いた上で、何人か紹介をし、選んでいただく。登録語り部全員を順番に派遣するのはちょっと違うかなと思います。相手方の目的によって派遣される方が片寄るかもしれませんが、それはそれ。事務局も大変だと思いますが、素晴らしい企画なのでこれからも続いていくことを願っています。
- 適切だと思う点：①の項目。県外派遣の機会が団体個人に偏らず、どの団体にも与えられる。
適切でないと思う点：②③の項目。「主催者の要望」と「団体個人の口演内容」のマッチングが十分に調整されていない。主催者の要望に応えられているかどうかの判断が、団体の判断でよいのか？不安が残る。

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

◆来年度はどのような申込み方法を希望しますか？

本年度と同じ方法	10 名
申込時、主催者に希望の語り部団体を選んでいただく	11 名
その他	4 名



【 その他 と答えた理由、具体的な申込み方法の希望 】

- 主催者側には、基本的には団体・個人の指定、指名は受けない。
どのような内容での講話が希望なのかのみを受け取る。
個人的には、語り部派遣を有料にして、各個人・各団体の指名制に移行するべきと思う。
- 同じ団体の同じ人ばかりが依頼を受ける事がないよう、各団体内でも配慮が必要かと思う。
- ①県外派遣事務局に申し込みがある。
その場合：主催者の口演内容の要望について、項目に分けて細かく選べる資料を作成。
団体個人の可能な口演内容について、項目に分けて細かく選べる資料を作成。
（例）地震津波、原子力災害、避難について、学校の状況、命の大切さ、人の繋がり、など。
口演の形態：口演（パワポ、動画使用）、紙芝居、音楽（歌）、美術作品
- ②県外派遣事務局が、主催者の要望と団体個人の内容を、資料によってマッチングする。
＊ 同じ内容であれば、リスト順に該当団体を選択する。
- ③県外派遣事務局が、団体個人に申込を連絡。調整。決定。

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

◆語り部県外派遣事業においてご意見がございましたらご記入ください。

【 語り部の選定方法について 】

- 根本的に相手（希望者、団体）様を考え、今までのアンケートデータを基にして選抜するので良いと思います。毎回出掛けてみて、まず自分自身のプラスが多いこと、「直にお話を聞けて実感できた」ことを相手様より伝えられています。
- 語り部の研修を受講したからには、皆さん機会を待っていることと思いますが、他県からの講演テーマとしては東北大震災を考えれば、津波・防災を選びやすく、そうなると同じ団体になるのは仕方ないのかなと、思った事があります。
- 主催者の講話内容の要望に基づいて、事務局が判断して語り部団体を選択し、各団体で語り部の人選をするという流れでよいのではと思う。
- 依頼件数(依頼者)やどなたが派遣されたのか？全体像が見えない。中間報告など、現状についての情報提供が欲しい。
- もう一年は継続して意見を集約したい。
- 片寄りすぎてモいがかかなと思います。

【 語り部県外派遣事業、語り部ネットワーク会議について 】

- インターネットに語り部の方が載らなくなったのはおかしいのではないかな？ 語り部の人数が増えすぎ。来年も増やしたら語る機会が減ってしまう。震災を知らない方が語り部になっている趣旨が合わないかな？
- 最近の派遣依頼には電話やメールの他にZoom会議などもあり、我々のようなWiFi難民にとっては派遣依頼が直接来るのは大変負担になっています。今まで語り部ネットワークさんにお世話になり何とか続けてこれましたが、このまま直接依頼の状態が続くのであれば活動も縮小を考えますし、ネットワークに入っている意味が無いと思っています。
- 私たち、語り部の社会的認知度アップのために、現在の福島県の予算での無料派遣を無くして、有料での派遣に切り替えて欲しい。
- 県外派遣事業は、現在、県。の事業であり、主催者には経費などの負担は生じない。団体個人は語り部としてのレベルアップを図る機会として、研鑽を積む好機だと言える。したがって、可能な限り団体個人の機会均等を図るべきだと考える。その際、主催者の要望に応える選出をするための工夫と努力が必要であり、団体個人の「自らの語る内容」についての自覚と信念が求められると思う。
- 今、地震があちこちで起こっています。福島で体験したこと、その後の暮らしのこと、まだまだ伝えていかなければならないと思います。知っていただくことが大切です。事務局と登録語り部のコミュニケーションも大切だと感じます。自信を持って紹介したい、私たちも選ばれたら一生懸命に仕事をするのが大切ですね。
- 相手先の要望に対して、満足いただけるような対応をいたしたいと考えています。県外派遣の申込先が求める内容に対して満足いただけるように研鑽してまいりたいと思います。申込に対する内容に応えるべく、研鑽をいたします。

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

◆語り部県外派遣事業においてご意見がございましたらご記入ください。

【 語り部育成講座・スキルアップについて 】

- ・ 養成講座から新しく事業へ参加なさる方がいると思います。残念ながら慣れてらっしゃらない。勿論当然です。場慣れをするまで、あるいは慣れるまで県内あるいはその「場」を作る事も大事ではないでしょうか。参加希望を問い、一般の方達にも聞いてくださるような「場」の提供までがフォローではないでしょうか。一、二度話ただけで、県外へ1人で出掛け話す事はハードルが高いと思います。
- ・ 研修会への参加が、日程の関係で叶いませんでした。この場合、研修会の資料や情報、決定事項などをお知らせ下されると助かります。
- ・ 語り部の力量に差があると、県外理解が進まないの、語り部のスキルアップ研修を再度受けられる制度が欲しいです。
- ・ 語り部の研修を受講したものの、一年過ぎても一度も人の前でお話した事がないという語り部さんの声も聞きます。年に2度語り部の交流(研修?)は行われているものの、せっかく学んだ事を忘れてしまったり、語り部としてのモチベーションが下がってしまうのではないのでしょうか？例えば、学校の授業、または語り部の研修など、小さなところで少しの時間でも語り部経験の少ない人が話す機会をつくって頂くなど『語りたい』と思って始めた気持ちを持ち続けられる仕組みができれば嬉しいと思います。

【 その他 】

- ・ この事業は全国的に展開されてますか。
特に原子力災害、防災については必要かと思います。各団体の個性？浜通り、中通りなど災害の受け方、あり方も違って当然であり、主催者が何について知りたいかしっかりと受けなくてはならない。
- ・ 文字が小さすぎて読みづらく、受講申込書は拡大していただけると助かります。
- ・ 県外派遣のみならず、国外派遣あるいは、福島県へ来られたインバウンド対応(英語)の語り部派遣の機会がありましたら、お声がけください。

受託事業者

株式会社 J T B 福島支店

福島県郡山市中町10-10
メルブ郡山1F



(2) 県内派遣

福島県教育委員会教育長宛てに、県内教育機関へ案内チラシの周知と積極的な活用について依頼文を発出した。

令和7年度 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部派遣事業（県内教育機関向け派遣）

ふくしま震災語り部から 防災・震災について 学んでみませんか。

東日本大震災・原子力災害の経験や教訓を伝える
「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」を派遣します

東日本大震災及び原子力災害の発生から14年が経過し、全国で風化が進行する中、震災等の記憶と教訓を人々の心に刻むものとして、語り部の生の声による伝承活動が重要視されています。

本事業では、「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」を、各小中学校・義務教育学校、各県立・私立学校に派遣し、世界に類を見ない複合災害の経験や教訓、そこから立ち上がる福島歩みや現状について思いを伝えます。

ぜひ児童生徒の防災教育における震災学習や教職員の研修に、ふくしま震災語り部をご活用ください。

派遣地及び派遣する語り部

(1) 派遣地

県内の各小・中学校・義務教育学校、各県立・私立学校

(2) 派遣する語り部

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等の語り部

申し込みから開催までの流れ

(1) 申し込みの受付

申込期限：希望日の約1カ月前まで

※語り部のスケジュールの都合により、日程の調整をしていただく場合がございます。

申込期限を過ぎる場合は各団体へ直接ご相談ください。

(2) 申込者（各学校担当者）と派遣語り部との電話・メール等での打ち合わせ

開催に向けての準備等を進めます。

(3) 会場への派遣、開催

会場設営、必要機器等の準備を行ってください。

申し込みの際の注意事項

(1) 語り部の謝金・旅費については、各団体の規定に基づいた金額を、申込者（各学校）で
ご負担となりますことを予めご承知おきください。

(2) 語り部による震災講話は、福島県の経験と教訓の学びと防災・減災意識の向上を目的とします。

(3) 必要機器等（プレゼンテーションソフトを使用できるパソコン、スクリーン、机、マイク及びマイクスタンド等）は各学校に準備していただきます。

申し込み・問い合わせ先

(1) 申し込み・お問い合わせは、福島県生涯学習課ホームページ「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議」の「ネットワーク会議会員一覧」に記載してある各団体に、直接連絡をお願いいたします。

(2) 本事業において、ご不明な点がございましたら、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議事務局（福島県生涯学習課）までお問い合わせください。

◆東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議事務局（福島県生涯学習課内）

TEL 024-521-7404

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055b/>

電子メール f.kataribe@pref.fukushima.lg.jp



4 協議 令和8年度事業計画

I ネットワーク化・レベルアップ

(1) 令和8年度会議等日程(案)

1 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

会議	開催時期	時 間	場 所	主な内容
第1回	5/15(金)	14:00～15:20	双葉町産業交流センター(予定)	令和8年度事業計画等について
第2回	令和9年 2/13(土)	13:30～15:30	双葉町産業交流センター(予定)	・令和8年度事業報告 ・令和9年度事業計画(案)

2 ふくしま震災伝承者交流会

候補日: 11/14(火) 13:00～16:00

場 所: 双葉町産業交流センター 大会議室

参加対象: 震災伝承者、震災伝承に興味のある方、関係市町村等

・基調講演、意見交流(グループワーク等)

・テーマ候補(令和7年度ふくしま震災伝承者交流会のアンケート結果から)

①沖縄の「平和学習」に学ぶ次世代への継承の仕組み(福島において「震災を知らない世代」に継承するヒント)

②「伝わる」資料作成術(スライド作成、資料作成の技術)

③災害の垣根を越えた伝承(阪神・淡路大震災、または中越地震の伝承活動がどのように継承されてきたか)

④絵本から学ぶ「感情に届ける」伝承技術(講師候補: すとうあさえ先生(「ディーゼルきかんしゃデデ」作者))

II 伝承者育成

1 伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム会議

会議	実施日	時 間	場 所	主な内容
第1回	6/24(水)	10:00～11:50	双葉町産業交流センター(予定)	令和8年度伝承者育成講座等について
第2回	令和9年 1/14(木)	10:00～11:50	富岡町文化交流センター(予定)	・令和8年度講座実施報告 ・令和9年度伝承者育成講座(案)等

2 3.11 被災地視察研修

候補日: 10/8(木)～10/9(金) (1泊2日)

候補地: 福島第一原子力発電所、岩手県釜石市、岩手県陸前高田市、宮城県女川町、宮城県気仙沼市(参考: R7年度は東松島市)

対 象: ネットワーク会議会員・語り部県外派遣者

4 協議（2）令和8年度伝承者育成講座（案）

・令和8年度 伝承者育成講座

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員および新規語り部希望者を対象に、多様な語りと知識を学び、福島への自身の想いを語るための研修を行います。

※講師に関しては県事業の精査及び伝承者育成PTの検討を加え調整します。

全体コーディネート：福島大学准教授 前川 直哉氏

回	項目	目的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第1回 7月18日 （土） 双葉町産業交流センター 大会議室 （予定） 開講式 10：30～	開講式					
	語り部の役割 （90分） 10:40～12:10	先輩語り部の講話を聴き、これまでの自身の活動を振り返ることで、語り部の役割についての理解を深め、自身が語ることの意義を理解することができる。	先輩語り部の実演を見学し、限られた時間の中で受講生に伝えるべきことをどのようにして語り、伝えようとしているかを習得します。 ＜内容案＞ ①震災講話を聴く ②講義(語り部の役割の本質的な理解) ③質疑応答	ネットワーク会議会長	・語り部としての心構えの習得 ・伝えるべき事項(震災の実相)の表現方法の習得 ・復興への挑戦からその「思い」を知る。	・講演資料(講師が準備の有無を確認)
	地域の想いの共有ワークショップ （75分） 13:00～14:15	語り部活動の課題と意義を整理し、語り継ぐ内容の本質について自分自身で理解し、言葉にすることで、「ふくしま震災等語り部」として自身の思いや伝えたいメッセージを具現化することができる。	未曾有の複合災害と、そこからの復興に向け果敢に挑戦する人々との意見交換を通して、自身が伝えたいメッセージの具現化と、語り部の取組の本質について理解を深めます。 ＜内容案＞ ①円卓等での相互インタビュー ②意見交換による深掘り ※「気づき」を持たせるヒントの与え方	復興に向け果敢に挑戦する人々 富岡町3・11を語る会代表 青木淑子氏、福島大学准教授 前川 直哉氏 （予定）	・ふくしま震災等語り部としての意識を、より高める ・自身の想いを伝えるための創意工夫と他の語り部との相違点	・福島のあの日からいま ・防災手帳
	よくある質問・震災知識についてのワークショップ （120分） 14:30～16:30	多くの人に知ってほしい福島のおかし、いま、未来について、事実が伝わっていないことや、伝わりづらいことを再認識することができる。	自身の語りの幅を広げるため、それぞれの経験や知識などを共有する機会を設けます。(地震・津波・原発事故・避難生活・放射線の基礎等) ＜内容案＞ ①聴講者からの「よくある質問」に答える（各グループ）班編制4人程度 ②フィールドパートナーの話 ③意見交換（各グループ） ※「気づき」を持たせるヒントの与え方 ※情報を収集し、多様性を理解するとともに持論を持つことを意識する	フィールドパートナー ふくしまリアリ代表 山口祐次氏 （予定）	・福島震災発生前、震災発生当時、震災発生後の事実についての共通理解 ・自身が想定していない質問や意見への対応と、多様性の理解 ・受講生の知識・意見などを共有 ・触れづらいことも知識として会得していく	・福島のあの日からいま 地震・津波 P4～9 原発事故 P10～13 避難 P14～17 P20～23 放射線基礎 P18～19 ・放射線副読本 放射線について知ろう P3～11 原子力発電所の事故と復興のあゆみ P12～14 風評被害や差別 P15～16 食べ物の安全性 P17～18

※第2回研修までに語り部原稿・メモの見直し

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月26日 (土) (1日目) 双葉町産 業交流セン ター出発 <u>9:30</u> (予定)	語り部案内に によるフィールド ワーク① (120分) 9:50～ 11:50	福島県内の語り 部の活動内容を 実践の場で体験 し、その活動現 場を訪れる。また、 自分自身の経 験を語るために 必要なスキルや 伝えるべき震災 の実相について、 参加者の間で学 び合う。	語り部の話を聞いたうえで、地域の 現状を把握するため、震災現場を 訪れます。語り部の実体験に基づく 説明を聞きながら、語り部活動の 重要性について考えます。 <内容案> ①震災現場訪問 ②語り部による地域案内 ③現場訪問フィードバック	・フィールド ワーク① 中間貯蔵施 設 大熊未来塾 代表：木村 紀夫氏(予 定) ・バス移動中 (大熊～い わき) ネット ワーク会議会 員による案内 ・フィールド ワーク② いわき市薄磯 地区 いわき語り部 の会代表： 大谷慶一氏 (予定) ・バス移動中 (いわき～双 葉) ネット ワーク会議会 員による語り	・自身が発信すべきこ とを具現化することが できる。 ・自分事を相手に伝 え、共感を得ることが できる	・講師資料(講 師が準備の有 無を確認) ・フィールドワー ク資料(現場案 内で普段使用 しているもの) ※2日目研修 までに自身の語 り部原稿素案 (概要)を見直 し、原稿案とし て作成
	語り部案内に によるフィールド ワーク② (100分) <u>13:50～</u> <u>15:30</u>					
	意見交換会 (40分) <u>16:40～</u> <u>17:20</u>					
双葉町産 業交流セン ター 大会議室 (予定)			フィールドワークを終え、実際の現場 を体験してみでの感想や、語り部の 話す内容との違いや疑問等につい て、意見交換を行います。参加した 受講生の気づきや、自身の思いを 具現化するために必要なことにつ いて考えます。 <内容案> ①語り部との意見交換	意見交換 会：福島 大学准教 授 前川 直哉氏 (予定)	・自身の経験を価値 に変えるための気づき を得る	
宿泊準備						

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月27日 (日) (2日目) 双葉町産業交流センター 大会議室 (予定)	伝わりやすい話し方講座 (90分) 09:00～ 10:30	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法に気づくことができる。	話し方講師から、語り部として伝えたいことを、自分の言葉で表現する方法を習得します。 ＜内容案＞ 話し方講座、多様な伝え方	福島大学 助教 久保田彩乃氏 (予定)	・語りを自身の言葉で伝えることができる	・講師資料 (講師に準備の有無を確認) ※第3回講座まで発表の練習
	プレゼンテーションスキルアップ (180分) 10:45～ 14:45 ※途中60分昼食休憩	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法を身につけることができる。	原稿に沿って実演を行い、参加者同士の意見交換を行います。さらに、受講生のセルフチェック用に実演の動画撮影を行います。 ＜内容案＞ 受講者の実演と実演に関する意見交換	福島大学 助教 久保田彩乃氏 (予定)	・自分事を相手に伝え、共感を得ることができる	

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第3回 11月28日 (土) 双葉町産業交流センター (予定)	プレゼンテーションスキルアップ 2 (180分) 10:30～ 14:30 ※途中60分昼食休憩	語り部自身が納得のいく語りを完成させるための余白を埋め、自分ごとの成果と進化およびその評価の向上を目指す。	語り部として、与えられた時間内に自身の想いを来場者に具体的に伝え、共感を得るための工夫やアピールの手法について、講師とともに学び合います。 ＜内容案＞ ①語り部プレゼンテーション ②受講生同士のスキルアップ	福島大学 准教授 前川 直哉氏 先輩語り部	・語りを通じ、来場者の共感や地域に対する想いの伝播が、自身で納得のいく反応を得ることができる。	・講師資料(講師が準備の有無を確認) ※第4回講座まで発表の練習

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	備考
第4回 令和9年 2月13日 (土) 双葉町産業交流センター (予定)	成果発表 (120分) 10:00～ 12:00	これまでの講座での取組を活かしながら、震災語り部として、自身の思いを伝えることができる。	4～5グループに分かれてパフォーマンス実演を行います。(1グループ3～4人＋講師) ※講師は発表者ごとに評価と講評を行う	先輩語り部 (東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議 会長・副会長・会員)	発表の様子は記録動画に保存し、アーカイブ化のための材料とする。

修了式 (2月開催の第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議内)

4 協議（3）

令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害 伝承者育成講座 開催要項（案）（次世代へつなぐ震災伝承事業）

1 事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から15年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性がより一層増している。その一方で、後継者の育成が課題であることから、福島県の複合災害の記憶と教訓を伝える語り部等を育成するため、伝承者育成講座を実施する。

2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 日程・内容

○開講式・第1回伝承者育成講座

【日時】令和8年7月18日（土）10：30～16：30（受付10：20～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】開講式

1時間目「語り部の役割」

2時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

3時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

○第2回伝承者育成講座（1日目） ※宿泊については希望される方のみ。

【日時】令和8年9月26日（土）9：30～17：20（受付9：20～）

【場所】集合場所：双葉町産業交流センター 駐車場

・フィールドワーク訪問地 大熊町中間貯蔵施設・いわき市薄磯地区

※バスでの移動

・意見交換会 双葉町産業交流センター 大会議室（予定）

【内容】フィールドワーク・意見交換会

○第2回伝承者育成講座（2日目）

【日時】令和8年9月27日（日）9：00～14：45（受付8：50～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】1時間目「伝わりやすい話し方講座」

2時間目「プレゼンテーションスキルアップ」

○第3回伝承者育成講座

【日時】令和8年11月28日（土）10：30～14：30（受付10：20～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】「プレゼンテーションスキルアップ2」

○第4回伝承者育成講座・修了式

【日時】令和9年2月13日（土）10:00～14:00（受付9:50～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】成果発表・修了式

※修了式は、同日の午後を開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行う。

○その他

(1) ①講座はマスコミオープンとする。

②受講者の様子を毎回、写真や動画で撮影し、活動報告及び広報活動（ウェブサイト、次年度以降のチラシ等）で利用する。

(2) 第2回伝承者育成講座は2日間にわたり開催する。宿泊は、希望者のみで、宿泊費は、受講者負担とする。宿泊先は、双葉町内のホテル（シングル8,000円程度）を予定。

(3) 全回、全過程を受講した者に修了証書を授与する。

(4) 受講修了者で、一定の条件を満たした者は、県外語り部派遣者として登録する。

4 受講対象 ・一般の方（高校生以上）で、福島県の震災伝承活動に関心がある方
・現在（過去も含む）、福島県の震災伝承活動をしている方

5 募集人数 15名程度

6 受講料 無料（交通費・宿泊費等は自己負担とする。）

7 申込方法

(1) 締切日 令和8年6月12日（金）（予定）

(2) 方法 受講希望者は、「(様式) 令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座 受講申込書」に必要事項を記入し、下記申込先へメールで申し込む。

8 受講者の選考

受講申込みが募集定員を超えた場合は、未経験者を優先する。

選考結果は7月上旬に申込者全員に送付する。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7404）

(様式) 令和 8 年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座 受講申込書 案

(ふりがな) 氏 名	氏		名		生年月日
					昭和・平成 年 月 日
住 所	〒				
電話番号	【自宅】		【携帯】		
メールアドレス					
職 業					
所 属 (語り部団体)					
語り部経験 ※経験有りの 方のみ記入	語り部経験年数		直近の年間講演回数		
	年		回／年		
受講理由	【動機】				
伝えたいこと (被災体験・ 教訓など)	【これまでの震災伝承活動に関する取組など】				
本講座を知っ たきっかけ	(例：普段からの心構え、災害時の行動等)				

- ①本講座はマスコミオープンとする。
②受講者の様子を毎回、写真や動画で撮影し、活動報告及び広報活動（ウェブサイト、次年度以降のチラシ等）で利用する。

申込先：東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp
(事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7404)

4 協議（4）

令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害 伝承者育成講座（中国語話者向け）開催要項（案）（次世代へつなぐ震災伝承事業）

- | | |
|----------|--|
| 1 事業の目的 | 中国語圏からの来県者の増加に伴い、今後さらに震災関連のインバウンド需要の増加が見込まれることから、 <u>福島県</u> の未曾有の複合災害の記憶と教訓を、中国語で伝えることができる語り部を育成する。 |
| 2 主 催 | 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議 |
| 3 日程・内容 | 令和8年度伝承者育成講座 開催要項のとおり（日本語講座に参加する）。 |
| 4 受講対象 | 福島県の震災語り部を希望する中国語が話せる方（講座の日本語が理解できることが条件） |
| 5 募集人数 | 2名程度 |
| 6 受講料 | 無料（交通費・宿泊費等は自己負担とする。） |
| 7 申込方法 | (1) 締切日 令和8年6月12日（金）
(2) 方 法
受講希望者は、「（様式）令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座（中国語話者向け）受講申込書」に日本語で必要事項を記入し、下記申込先へメールで申し込む。 |
| 8 受講者の選考 | 受講申込みが募集定員を超えた場合は、書類審査により選考する。選考結果は7月上旬に申込者全員に送付する。 |

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7404）

(ふりがな) 氏 名	氏		名		生年月日 昭和・平成 年 月 日
住 所	〒				
電話番号	【自宅】		【携帯】		
メールアドレス					
職 業					
所 属 (語り部団体)					
語り部経験 ※経験有りの 方のみ記入	語り部経験年数 年		直近の年間講演回数 回／年		
受講理由	【動機】				
	【これまでの震災伝承活動に関する取組など】				
伝えたいこと (被災体験・ 教訓など)	(例：普段からの心構え、災害時の行動等)				
本講座を知っ たきっかけ	(例：				

②受講者の様子を毎回、写真や動画で撮影し、活動報告及び広報活動（ウェブサイト、次年度以降のチラシ等）で利用する。

36

4 協議 (5)

令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害

伝承者育成講座（英語）開催要項（案）（次世代へつなぐ震災伝承事業）

1 事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から15年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性が増すとともに、インバウンドのニーズが高まっている現状から、海外に向けた震災伝承に対応するため、本講座を実施する。

2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 日程・内容

○第1回講座

【日時】令和8年7月18日（土） ※対面（育成講座と同日）

受講生①の講座：10:40～11:40

受講生②の講座：12:40～13:40

受講生③の講座：14:10～15:10

※講座は講師と受講生のマンツーマン式で行う。

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室（予定）

【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」

○第2回講座

【日時】令和8年9月5日（土） ※オンライン

受講生①の講座：9:00～10:00

受講生②の講座：10:30～11:30

受講生③の講座：12:30～13:30

【内容】「翻訳原稿の音読講座②」

○第3回講座

【日時】令和8年10月17日（土） ※オンライン

受講生①の講座：9:00～10:00

受講生②の講座：10:30～11:30

受講生③の講座：12:30～13:30

【内容】「翻訳原稿の音読講座③」

○第4回講座

【日時】令和8年12月5日（土） ※オンライン

受講生①の講座：9:00～10:00

受講生②の講座：10:30～11:30

受講生③の講座：12:30～13:30

【内容】「翻訳原稿の音読講座④」

○第5回講座・修了式

【日時】令和9年2月13日（土）10:00～12:00 ※対面（育成講座と同日）

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室（予定）

【内容】成果発表

※修了式は、同日の午後に開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行う。

4 受講対象

○東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員で、おおむね語り部歴3年以上の方または伝承者育成講座の修了者で受講を希望される方。

○「津波による被災」「原発事故による長期避難」「復興の取組」等のいずれかのテーマで話せる方。

5 募集人数 3名程度

6 受講者選考方法

語り部団体から、「(様式) 令和8年度東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座(英語) 受講希望者推薦書」により、推薦があった候補者の中から事務局で選考し被推薦者に意思確認を行う。被推薦者から承諾を得た後、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の承認を受けて、受講生を決定する。選考結果については、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等へメールで報告する。

7 受講料 無料(交通費、昼食費、オンラインに要する費用は、自己負担とする。)

8 全体スケジュールイメージ

事前準備(4月～6月)	講座受講(7月～2月)	成果発表	修了後
①語りの原稿(日本語発表で20分程度の原稿)を作成、事務局に提出。 ②県国際課で英訳・音声データの提供を受け、音読練習を行う。	○全5回講座、講師と受講生のマンツーマン式。 ※次回の講座まで、各自で自主練習(翻訳原稿の音読練習)を行う。	○第5回講座で成果発表(語り約20分、講評10分程度を予定)	○ネットワーク会議各団体や伝承館等のインバウンド対応。

9 その他

- (1) 本開催要項の日程は、今後、参加者の状況に応じて変更することがある。
- (2) 成果発表は、講師のほか英語話者の聴講を調整する。
- (3) 本講座は英語スピーチの習得に特化したものであり、英会話の習得を目的としない。
なお、質疑応答は引き続き通訳を介して行うものとする。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール: f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

(事務局: 福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL: 024-521-7404)

(様式) 令和8年度東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座(英語)受講者推薦書(案)

◆ 推薦者の連絡先

団 体 名	
代表者名	
メー ル	
電話番号	

◆ 被推薦者について御記入ください。

(ふりがな) 氏 名	氏		名		生年月日 昭和・平成 年 月 日
住 所	〒				
メー ル					
電話番号					
語 り 部 経 験	語り部経験年数		直近の年間講演回数		
	年		回/年		
◇話の主な内容(「津波による被災」「原発事故による長期避難」「復興の取組」等、東日本大震災に関連する内容を記入)					
◇伝えたいこと(例: 普段からの心構え、災害時の行動、教訓 等)					
◇現在の英語力(TOEIC、英検等)や英語の学習・使用経験等					

推薦書は、令和8年3月●日(●)までメールで御提出願います。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール: f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

(事務局: 福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL: 024-521-7404)

令和7年度 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部派遣事業

つとづつ、
実現する
ふくしま

東日本大震災・原子力災害の経験や教訓を伝える

東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部 を無料で派遣します

東日本大震災及び原子力災害の発生から14年が経過し、全国で風化が進行する中、震災等の記憶と教訓を人々の心に刻むものとして、語り部の生の声による伝承がますます重要になっています。

本事業では、「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」を全国に無料で派遣し、世界に類を見ない複合災害の経験や教訓、そこから立ち上がる福島の実状や魅力について思いを伝えます。



派遣先及び派遣する語り部

① 派遣地

各都道府県の防災イベント、防災研修等

② 派遣する語り部

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部
ネットワーク会議登録団体等の語り部



申込みから開催までの流れ

① 申込みの受付

申込期限：原則2ヵ月前まで。

② 派遣の可否の連絡

申込書受付後、3週間以内に連絡します。

③ 派遣者名等の派遣内容の連絡

開催日の1ヵ月前までに連絡します。

④ 防災イベント等主催者と 電話・メール等での打合せ

開催に向けての準備等を進めます。

⑤ 会場への派遣、開催

会場設営、必要機器等の準備をお願いいたします。



申込みに際しての注意事項

- ① 派遣対象：自治体、学校、その他の団体が主催し、地震・津波・原子力災害の複合災害への理解及び防災・減災意識を高めることを目的とした講座等とします。ただし、政治・宗教・営利を目的とする集会等は除きます。
- ② 聴講者数：概ね20名以上が聴講する防災講座等に派遣します。ただし、これを下回る場合においても状況に応じて派遣します。
※必要機器等（プレゼンテーションソフトを使用できるパソコン、スクリーン、机、マイク及びマイクスタンド等）は申込者に準備していただきます。また、会場借上料などの必要経費は申込者の負担となります。
- ③ 講話後、アンケートの御協力をお願いいたします（主催者・聴講者）。

申込み・問合せ先

申込みは、福島県生涯学習課のホームページから、『東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部震災講話受講申込書』をダウンロードして、必要事項を御記入の上、下記のアドレスまたはFAXにて。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部派遣事務局

TEL：080-3933-6718 〈9:30～17:30（土日祝及び年末年始を除く）〉
FAX：024-522-2980
電子メール：f-kataribe@jtb.com

主催・申込書ダウンロード先

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議事務局（福島県生涯学習課内）

TEL：024-521-7404
ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055b/muryo-kataribehaken.html>
電子メール f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp



令和7年度「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」震災講話 受講申込書

※事前に「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」派遣のご案内をご確認願います。

【申込先】東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部派遣事務局（株式会社JTB福島支店内）
TEL：080-3933-6718 メール：f-kataribe@jtb.com FAX：024-522-2980

(1) 申込日		
(2) 申込団体	フリガナ：	
	団体名：	
	郵便番号：	
	住所：	
	TEL：	
	メールアドレス：	
	ご担当者名(ヨミ)：	
	当日の連絡先：	
(3) 派遣希望日時 (令和8年2月まで)	第1希望：	年 月 日 () 〇〇:〇〇 ~ 〇〇:〇〇
	第2希望：	年 月 日 () 〇〇:〇〇 ~ 〇〇:〇〇
	第3希望：	年 月 日 () 〇〇:〇〇 ~ 〇〇:〇〇
(4) 講演会場 *階数、部屋をご記入ください	*会場名：	
	住所：	
	TEL：	
(5) 参加予定人数	名 (学校様の場合内訳をご記入ください：学生 名・教職員 名・保護者等 名)	
(6) 講演会（イベント等） の名称		
(7) 開催目的		
(8) 開催状況	単独開催	(「ふくしま語り部」講演会のみ開催)
	会の一部として開催	()
(9) 要望する講演テーマ ※3つまで選択可	☐ 地震 ☐ 津波 ☐ 原発事故被災 ☐ 震災教訓 ☐ 子どもたちの被災 ☐ 復興復興 ☐ 震災関連死 ☐ 広域避難 ☐ 伝統芸能、民話 ☐ 放射線	
(10) 講演内容のご要望	どのような講話内容がご希望か、下記に詳しくご記入をお願いいたします。特定の語り部のご希望はお受けできませんのでご了承くださいませ。	
(11) 過去に本事業で語り部講演を 実施されたことはございましたか	はい	(回実施)
	いいえ	
(12) 本事業は何で知りになりましたか		
(13) 事前に語り部との打合せは必要ですか	必要	日程のご相談をさせていただきます。
	不要	事務局を通し、語り部派遣者と打合せをいたします
(14) 写真の提供とメディアへの情報 公開の確認	①主催者様へ講話時の写真の提供をお願いしております。ご協力いただけますか。	
	はい	いいえ *聴講者様が特定されない写真の提供をお願いしております
	②本事業または語り部ネットワーク会議をマスコミが取材した際に、派遣先の団体名や講演日程を公開してもよいですか。	
	はい	いいえ
(15) その他要望等		

語り部派遣に関するご案内

語り部派遣に関する留意点

派 遣 先	: 各都道府県の防災イベント、防災研修等 *修学旅行生等、聴講者が県外者であれば県内派遣は可能
派 遣 対 象 講 座	: 自治体、学校、その他の団体が主催し、防災・減災意識を高めることを目的とした講座等とします。ただし、政治・宗教・営利を目的とする集会等は除きます。
派遣する語り部	: 「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議」登録団体の語り部 1 名 ※語り部の指名はできかねますので、ご了承ください。
派遣にかかる経費	: 語り部の交通費、宿泊費等は福島県が負担します。 会場費、必要機材の準備費はお申込団体様のご負担となります。
必 要 機 材	: パソコン、プロジェクター、スクリーン、マイク等
聴講者数と講演時間	: 概ね 20 名以上が聴講する防災講座等に派遣します。 講演時間は 60 分程度、講演会全体は 60 分から 90 分を見込んでおります。
派 遣 時 期	: 令和 8 年 2 月まで
主催者様への お願い	: ■ 参加者の取りまとめ ■ 講演するための会場の確保、機材の準備と設営 ■ 講演時の写真の提供（参加者が特定されないような写真） ■ 福島県アンケートの回答（申込者・聴講者）、回収、送付

事務局からのご案内

- ・派遣できる件数に上限がございますので、お早めにお申し込みください。
- ・派遣日時については、お申込状況や語り部のスケジュール等によりご希望に沿えない場合がございます。また、諸事情により急遽語り部が変更になる場合がございますので、ご了承ください。
- ・派遣する語り部は、お申し込み後に事務局よりご連絡させていただきます。
- ・最寄り駅や、語り部が宿泊するホテルより、送迎のご協力をお願いする場合がございます。
- ・オンラインでの講演は基本的には開催しておりませんのでご了承ください。
- ・講演動画の撮影は事前にご相談ください。講演動画の配信はお断りしております。

申込み方法

福島県生涯学習課の本事業ホームページから、「申込書」をダウンロードし必要事項を記入または入力の上、下記へ申込みください。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部派遣事務局
(株)JTB福島支店 福島サテライト内)
TEL：080-3933-6718 (9:30～17:30 土日祝・年末年始を除く)
FAX：024-522-2980
Mail：f-kataribe@jtb.com
ホームページ：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055b/kataribehaken.html>

4 協議（6）

語り部県外派遣者の登録及び資格について

1 現状

育成講座修了者は、ふくしま語り部ネットワーク登録の団体に所属し、事務局が修了者本人に派遣者登録希望の意志確認を行い、講演実績や語りの完成度などに囚われず、希望者を語り部県外派遣者として登録し、県外へ派遣している。

「令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座 開催要項」

（1）全講座を受講した方に修了証書が授与されます。また、修了された方は、県外語り部派遣者に登録されます。

2 懸念事項について

現在は、講演の経験が不足している状態であっても、依頼者のニーズと登録者の講演テーマが合致すれば、所属団体の判断次第で派遣される。

育成講座の受講者は今後も増加する。福島県での東日本大震災・原子力災害の被災体験が乏しい方も増加する可能性がある。

講演の経験値が少ない登録者が派遣され、語りや質問への対応等が聴講者に受け入れられなければ、県外派遣の質が問われ、依頼件数の減少が想定される。

3 変更（案）

以下の要件を満たし、福島県の東日本大震災・原子力災害伝承者として語れる者を、語り部県外派遣登録者とする。

- ・実績要件

官民を問わず、研修会や講演会等の講演回数が3回以上あること。

- ・語り部県外派遣者登録期間

育成講座修了後より開始し、随時受付を行う。

- ・登録手続き

登録申請書（指定用紙）を事務局宛に提出する。申請者は、当該語り部が所属する団体とし、3回以上の講演実績（日時・場所・対象等）を記入する。事務局が申請内容を確認し、要件を満たせば県外派遣登録者として登録する。

4 協議（7）

語り部県外派遣の申込及び派遣者の決定について

1 現状

現在の申込み～語り部決定までの方法

- （1）依頼者から県外派遣事務局（JTB）に申込み（申込書には講話内容の希望、時間、質疑の有無等が記載。語り部個人の指名はできない）。
 - （2）県外派遣事務局より、派遣登録団体のリスト順に、団体へ可否を打診する。
 - （3）団体は、依頼内容・日程等を確認の上、派遣可否を決定し、県外派遣事務局に回答する（依頼者の要望の講演内容に沿えるかは、団体が判断する）。
- ※断った場合、県外派遣事務局はリスト上の次の団体に打診する。なお、断った団体は、次の申込時は、優先1位で打診する。

2 課題

依頼者と語り部のミスマッチが起こりうること。

例：津波災害にあった人の話を聞いたかったのに、実際には経験していない人だった。

3 対応検討

- （1）依頼者からの語り部の指名について認める場合

《メリット》依頼者が、過去の依頼実績や話の内容を把握した上での指名となり、依頼者の安心感につながる。

《デメリット》派遣される語り部が固定化。一部の語り部に依頼が集中し、新規の語り部に依頼がないおそれ。

- （2）依頼者からの語り部の指名について認めない場合

《メリット》・派遣機会が均等になる。

- ・依頼者と派遣者双方にとって、新しい出会いとつながりが生まれ、新しい情報や発見が得られる。

《デメリット》依頼者の期待にそえないおそれ（話の内容、話し方、質問への対応）

4 今後の県外派遣者の決定について（案）

上記（2）としたい。

- ・本事業は、国の交付金を原資に、福島災害・教訓を多くの方に伝承することに加え、語り部を育成し、語り部の伝承活動を持続していくために行っているものである。
- ・世代や地域を越えて、伝承活動が持続可能になるためには、伝承者を育て、増やしていく事がふくしま語り部ネットワーク会議に課せられている務めだと考える。

※伝承活動の先進地である広島でも、語り部への謝礼・旅費を市が負担して全国へ派遣しているが、依頼者からは語り部を指名できない。

なお、ミスマッチをできる限り解消するため、依頼者の希望をより詳細に汲めるよう、派遣登録団体の紹介をより詳しくする、申込書の講演内容要望の記載欄の修正など工夫する。

東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部ネットワーク会議設置要綱

(設置目的)

第1条 東日本大震災・原子力災害の記憶と教訓を後世へ伝えていくため、県内の語り部団体等が連携し、持続可能な震災伝承の体制を構築することを目的として、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議（以下「ネットワーク会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 ネットワーク会議は、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 語り部団体の連携促進に関すること。
- (2) 語り部の人材育成に関すること。
- (3) 語り部の県外等への派遣に関すること。
- (4) その他ネットワーク会議の目的を達成するために、会長が必要と認める事項。

(組織)

第3条 ネットワーク会議は、第1条の目的に賛同する県内語り部の団体を代表する者等（以下「委員」という。）をもって組織する。

- 2 委員は、無報酬とする。
- 3 ネットワーク会議に、会長及び副会長1人を置き、委員の互選により定める。
- 4 会長及び副会長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(会長及び副会長)

第4条 会長は、ネットワーク会議の業務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会長は、ネットワーク会議を招集し、年1回以上開催するものとする。

- 2 会長は、ネットワーク会議を招集しようとするときは、書面により会議の日時、場所及び議題をあらかじめ委員に通知するものとする。
- 3 会長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見・助言を求めることができる。
- 4 会議は公開で行う。ただし、個人のプライバシー保護及び法令等による公開禁止に該当する場合、非公開とすることができる。
- 5 会議の資料及び議事録については、原則として公開する。ただし、個人のプライバシー保護及び法令等による公開禁止に該当する場合、その全部又は一部を非公開とすることができる。

(部会)

第6条 ネットワーク会議に、部会を設置することができる。

2 部会の組織及び運営については、別に定める。

(事務局)

第7条 ネットワーク会議の事務局を、福島県文化スポーツ局生涯学習課に置き、生涯学習課長を事務局長とする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、ネットワーク会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、令和4年11月6日から施行する。